

三櫻工業株式会社 2021 年 3 月期 期末 決算説明会質疑応答

実施日時：2021 年 5 月 27 日（木）15:00～15:45

Q1. 半導体不足や原材料価格の高騰などの事業への影響についてお訊きたい。

A1. 半導体不足による自動車メーカーの生産への影響は、当社の事業にもインパクトがあるが、2022 年 3 月期の業績予想は、現時点で把握している半導体不足の影響を踏まえてお出ししている。
原材料価格については、一昨年より市況価格の変動は客先へ転嫁する交渉を継続して実施しており、時期のずれはあるものの回収できる見込みである。
グローバルサプライチェーンが不安定な状況であるが、当社としてはサプライヤーの多国籍化および地産地消により、安全在庫の確保およびリードタイムの削減を進めていく。

Q2. 為替や、顧客生産台数などの外部要因以外の成長ドライバーについてお訊きたい。

A2. 当社は独立系の Tier-1 サプライヤーであるため、日系自動車メーカーだけではなく、独系や米系の自動車メーカーとも長年取引実績がある点が強みである。
EV 化対応においては国や地域によって方針が異なるが、当社は全世界の自動車メーカーと開発段階から関わっていることから、EV 化の先行事例において実績を積み上げることで、サーマル・ソリューション事業の拡大を目指す。

Q3. 中期経営方針における、資金の使途について、また、自社株買いの予定についてお訊きたい。

A3. 投資規模は、2022 年 3 月期は 75 億円弱（2020 年 3 月期と同水準）を現時点で見込んでおり、テーマとしては、高収益化・高品質化のための DX や IoT の分野を予定している。場合によっては M&A 等も積極的に検討する。
自社株買いについては、一つのオプションとして検討するが、原則的にはイノベーション等の企業価値を高める投資を行いたい。

Q4. 中期経営方針の ESG への取組みに関連して、生産プロセスにおける CO₂削減の詳細や、目標についてお訊きたい。

A4. 当社製品においては、ブレーキパイプやエンジン部品において旧来の生産プロセスがあり、見直しの必要があると考えている。数値目標については、今年度内に環境方針としてまとめたうえで Web サイト等を通じてお示しする。

Q5. 中期経営方針の次世代コア事業に関連して、ソリッドパワー社の全固体電池の開発状況と、シナジーに向けた取組みの進捗についてお訊きたい。

A5. SolidPower との協業に関する情報は、同社と秘密保持契約があるため全ては開示できないが、現在も当社は全固体電池の周辺技術の開発を続けており、SolidPower とも緊密に連携を取っている。また、自動車メーカーとの協業によるソリューション提供も検討している。

Q6. 営業利益率の今後の見通しについてお訊きたい。

A6. 2021 年 3 月期の下期は当社としても過去最高益であったが、コロナ対応のためコストや投資を抑制していたことによる部分が大きい。他方、コロナ対応によりコスト管理やグループ会社のガバナンスの部分では数年前よりもレベルが上がっており、コスト構造的には営業利益が崩れにくい基盤ができた。当社の過去の営業利益率は上下が激しかったが、今後は安定した利益率を維持していく見込みである。

Q7. 今期の営業利益の計画について、増減要因をお訊きたい。

A7. 2021 年 3 月期の下期はコストを削減している中で売上の反発があり、またサプライチェーンの混乱による自動車メーカーの減産の影響もあるため、今年もこの営業利益が維持できるとは考えづらい。ただし、コスト削減には受注減に伴うものと、一昨年より始めていた構造改革により得られたものがあり、後者については今後も継続して効果があると考えている。

以上